市芦救援会通信

市芦救援会通信 通巻37号 90/1 (1部100円) 発行人 玉本 格
市芦救援会 〒659 芦屋市剣谷9 市芦分会気付 TEL 0797(32)1131
市芦反弾圧闘争を支援する会 〒650 神戸市中央区元町通5丁目3の16 テーラビル3F

日程 2月3日(土) AM10~ 証言 小林管理部長

処分撤回をめざし今年も頑張ろう

市芦救援会事務局

去る一月十日、六一年十月一日に学期途中で強配された鈴木先生について、小林前管理部長への処分者側主尋問が行なわれました。昨年末、体調を崩されていた「支援する会」の小川会長も元気な姿をみせられ、多数の傍聴者の参加のもと審理がはじまりました。六〇年秋の『市行革大綱』に基づき「定員管理の適正化」を標準定数法によりはかったと証言。六一年四月の一クラス減による二名定員減が一名減しできなかったので秋に配転したとの主張は、一方でその年の四月人事で「教科の強い要求で一名補充した」という証言と矛盾し、四月に二名減方針を自から変更していたことは明らかなのです。また、学期途中の異例の異動について、「高校総体の参加者の宿泊先幹旋に人がいる」と証言、更に「学校混乱なしと判断」「十月は定例異動月」とうそぶきましたが、異動理由の不自然さの中に組合つぶしの意図が浮上したといえます。

また、争点となる「教員身分」の扱いについて、指導主事への配転は「教員身分を保有したまま転任であり、本人同意は不必要」と証言。しかし「時間外手当は支給」と、事務吏員と教員身分についての関係は不明確といえます。

今回は六二年三月末の六人の先生の強配についての主尋問です。多くの方々の傍聴参加をお願いいたします。

最後にになりましたが、市芦反弾圧闘争も四年目に入り、私達も元気に闘っております。確かにとりまく状況は大変きびしいものがありますが、新しく兵高教の支援も得て、争議団として地域の市民・労働者としてしっかり連帯してゆかねばなりません。国労つぶしにみられる不当労働行為を許さず、反合理化、反行革、反臨教審の闘いを地道につみ上げてゆく闘いをすすめるべく、今年も皆様と共にがんばりましょう。

も／く／じ

処分撤回をめざし今年も頑張ろう	市芦救援会事務局	1
第23回公開口頭審理報告		
旅館幹旋業務にと学期途中で強配、学校に混乱はないと嘘ぶく小林証人		2
教育から何を奪おうとしているのか	定時制・通信制つぶしを許さぬ会 辻 正博	6
分会字報日より 12/16「兵高教」結成大会開かれる	市芦分会	10
「資料」兵高教運動方針 当面の闘争方針(抜粋)		11
市芦救援会決算報告		12

第二三回公開口頭審理報告

旅館斡旋業務にと、学期途中で強配
学校に混乱はないと嘘づく小林証人

「行革大綱」により定員見直し

寺内 弁護士（以下寺内と略）
今日は申立人鈴木さんの件について。教職員の配置について、事務の所管はどこですか。小林証人（以下小林と略）
市教委事務局の教職員課が担当しています。寺内 証人は市教委におられる時は管理部長で教職員課を統括しておられたのですか。小林 はい。
寺内 芦屋市では教職員の人員配置に一定の基準なり方針があったのか。
小林 ありません。人事異動方針です。寺内 対外的に公表されておるようなものか。小林 特に公表するものではない。内部的にやっておった。
寺内 その方針はいつ頃出来上るのか。
小林 前年の秋、一〇月か十一月。一月末までぐらいに内部討議をして、一月末か二月上旬ぐらいに人事ヒヤリングの日程を決め実施

し、三月半ば以降に誰をどうするか決める。寺内 六一年度の人事異動について、方針で例年とかわったことは。
小林 日本全部の問題ですが、六〇年秋に芦屋市行政改革大綱が出され、その中に定員管理の適正化、定員の見直しという事があり、それを参考にしなければならぬと。
寺内 六〇年一〇月に行革大綱が出たので、六一年度の教職員の配置に関して重点的に見直していくという形になったと見てよいか。
小林 はい。例えば、事務職員の定数の適正化、幼稚園の用務員の基準の変更、市芦の定員の適正化とか民間委託とかを考え、一挙にはなく年次のにやっていたかと考えていた。
寺内 市芦の定員配置に関する方針は。
小林 法令の規定に従うということで、標準定数法にのっとってやっていくという考え。市芦はその法を適用すると非常に多いと。
寺内 市芦のヒヤリングは。
小林 一月末か二月上旬に。
寺内 まだ具体的にクラス数が決まらない時

ですが、どういう内容で。
小林 学校運営全般について、校務分掌、教科担当、授業の持ち時間等。
寺内 従来と異なった人事ヒヤリングですか。小林 行革大綱の話はした。今後具体的に定員の適正化をどのようにすすめていかないかにかという話をした。
寺内 その後のヒヤリングは。
小林 三月二〇日すぎ。市芦の入試の合格発表の後。
寺内 市芦の教員数は。
小林 校長、教頭を含めて四四人。休職者が一名で、それを含めて四四名。
寺内 実際の配置は四三名ですね。
小林 はい。
寺内 その内訳は。
小林 養護教員一人、図書司書一人、助教諭五名、あとは教諭。

県・市交流のつじつま合わせ

寺内 六一年の人事異動は。
小林 四人出られ、三人入られた。出た方は森位、榎原、田辺、二宮先生、入られた方は田辺、松井、潮見先生です。
寺内 クラス数の変動は。
小林 ありました。
寺内 標準法では一クラス減で二名減らすと

いうことですが、一名しか減ってませんが、理由は。
小林 英語科から強い要望がありましたので。寺内 出られた四名について、理由は。
小林 六一年度に県の試験をうかっていたのが田辺、二宮先生で。
寺内 合格されたら県へ出るということですね。この二名は減になりますね。
小林 はい。
寺内 他の二名の方は。
小林 以前に県にうかっています。
寺内 県へ転出すると補充しないということが出来るとですか。
小林 はい。
寺内 しかし、県から交換要員の申し出があるのではないですか。
小林 県へ行くということは県から受入れをするというのが大前提、県市一・一交流といわれている。県で受け入れがないと行きようがない。
寺内 榎原、森位先生は県に以前に受かっているのでしょうか。
二宮先生は新しく試験に受かったので事情が違いますね。
小林 はい。県からすると新しい採用で、県で任命権を行使する。
寺内 田辺先生について、新しく県への採用という事で、交流という条件はないですね。

小林 市芦の組合から市芦教員として採用せよという強い要求があり、本人の希望もあって県教委へ市芦へまわしてほしいと要求した。寺内 これは一・一交流から離れると。
小林 いえ、森位先生が出られた後の交流。寺内 榎原先生に関して県の提示は。
小林 潮見先生。
寺内 二宮先生は新しく県に合格されたので、県から提示をうける必要がない先生ですね。
小林 はい。
寺内 二宮先生が出たことについて英語科から強い要望があり松井先生を県から来ていただいたということですか。
小林 はい。

旅館斡旋役に鈴木先生を強配

寺内 六一年度の四月の人事異動が、二名減の予定が一名減となったが、他の教育機関への異動について、高校総体については。
小林 六一年一月末ぐらいまでに人員配置の検討をし、原田主幹を兼任で配置した。
寺内 四月以降補充されませんでしたか。
小林 高校総体の準備として、五月頃に一人では無理だと人員配置をして欲しいとの要望が原田主幹からあった。
寺内 それでどうされましたか。
小林 六月に嘱託職員を一名配置した。

寺内 高校総体の準備で、この二名で六月以降やっておられたんですね。六一年八月に業務推進計画が作成され、増員の要望があったと思いますが、具体的にどういう仕事をやらしてもらいたいからという話は。
小林 ヨット競技で担当数の生徒が芦屋に宿泊するので、芦屋は旅館が少なく、夏は高校野球と重なり宿泊も決っているの、相当前から準備が必要であるということがあって、結局、民間の保養施設を利用することになるし、そこで、折衝することが多くなるので、それができる人ということの強い要望がありました。
寺内 どういう検討をされましたか。
小林 県の指導も早く体制をつくれという指示があり、人員配置が必要と考えました。
寺内 そこで、どこ部署の方がいいかという中で、市芦が候補の対象になったというのは、さき程来の話の、教員配置の適正化ということが影響したってたんじゃないですか。
傍 誘導がひどいな！
小林 市芦で四月に二名減をしなくてはならぬという中で一名しか減にできなかったという問題もあり、市芦教員の中から適当な人はいないかということで、学校への影響ということもありますので、ヒヤリングをした。
寺内 学校長からヒヤリングの時期は。
小林 九月の上旬頃であったと。教科の持ち

時間とか、校務分掌とか。

寺内 二・三月に人事ヒヤリングをしますが、また九月にされたのは。

小林 同じ様なことですが、具体的に配置をするために。

寺内 なぜ九月にあらためてヒヤリングをしたのかということですが。

小林 四月以降の状況の変化があるかも知れませんし。

傍 松本教育長がきたことやないか。

教師の十月異動でも学校混乱はない

寺内 異動時期が学期途中という問題がありますが、その点は市教委としてどう考えられたのか。

小林 翌年四月にとも考えたが、一人減ということもあり、高校総体の準備もあるし、市芦教員をあてると学校の混乱があるかどうか……結局、一番早い時期ということでも一月一日にしました。

傍 学校の混乱がないと判断したんか！

寺内 他の理由は。

小林 市の異動は四月と一〇月ですし……教員には一〇月はないぞ。

寺内 四月の時点での配置についての見通しが少し甘かったということは。

小林 たしかに年度途中ということから考え

ますと、ある程度そういうきらいもないではないと……

寺内 鈴木先生に関して、異動の対象になったのは。

小林 一つは経験が豊富であるということ。

傍 宿泊でか！ 何の経験や！

小林 市芦で男子教員の中で一番経験年数が多い。

傍 それは前田和夫やないか(爆笑)

寺内 ヒヤリングの中で聞かれて、企画能力、折衝能力だとか、学校現場という問題については配慮は。

小林 異動して減になった場合に混乱がおこるかどうかにについて検討した。社会科の持ち時間とかみて、時間がそう多くなって、たとえ一人減になってもいけると考えましたし、たとえば教頭が社会科でカバーもできると考え、混乱はおこらないだろうと考えました。

傍 混乱おこったやないか。

寺内 最終的に結論を出されたのは。

小林 ギリギリの、九月の終わり頃かと。

寺内 学校長に異動の話をしたのは。

小林 ……一〇月一日の前日です……

傍 ええかげんやの！ ウソつくな！

小林 前日電話して一〇月一日の朝に来てもらって、そこで異動するので学校の混乱はできるだけないようにしてくれと話した。

寺内 学校長は。

の職員の職名に関する規則)に、事務吏員の中に指導主事というのがありますが、どういう事務に従事されるんですか。

小林 地教法第十九条に規定があり、学校教育に関する専門的な事項の指導に関する事務に従事すると。

寺内 一九条三項に、「指導主事は上司の命をうけ、学校における教育課程、学習指導その他の学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する」とありますが。

傍 宿泊は関係ないぞ(笑)なんの関係あるねん。

寺内 うるさいね(笑)

傍 弁護士が注意できるんか。そりゃ素人ですから(笑)

寺内 指導主事はどういう方であればならぬかということ。

小林 四項後段に、「指導主事は大学以外の公立学校の教員をもってあてることができ」

寺内 どういう風に呼ばれていますか。

小林 いわゆる「あて指導主事」

寺内 鈴木先生の場合、それに該当するの。小林 一般的に「あて指導主事」というのは職名にもない。しかし、慣習的に教育委員会を使っているが、それは県費負担職員があられる場合で、その場合に慣習的に使っている。寺内 鈴木先生は「あて指導主事」でない。小林 そうです。

小林 そういう形で協力しますと。

寺内 前日、九月三〇日の電話で鈴木先生の異動という話はされましたか。

小林 してません。

傍 ウソつけ！ そんなバカな異動があるか！

教員身分で兼務、本人同意は不必要

寺内 鈴木先生の異動について、配置がえということですから身分的なことは検討されたと思いますが。

小林 教員の身分です。

寺内 異動前は教諭で、異動後の職名は。

小林 指導主事です。

寺内 それで身分が変わらないというのは。

小林 一つは教育職給料表の適用と、それから今後の配置がえで教員の仕事につくことはありうると。

寺内 もし身分が変わっていると、人事の手続上どういう処置をされるのですか。

小林 退職して採用するという形になります。

寺内 あらたに採用となると給料表の適用もかわってくるということですね、そういう事実がある場合は明らかに身分が変わっているということは、我々素人にもよくわかることなんです。

傍 誰が素人やねん。素人が弁護士とるんか。

寺内 乙第一四号証(芦屋市教育委員会所管

員は、現に市芦に勤務する教員のみを入れるという考え方にかえて、定数標準法に基づいた形で決めました。

傍 組合員とばすために定数へらしたんや。寺内 具体的に勤務している先生方の数をもとに条例をつくったのが新しい条例ですね。

小林 改正前は指導主事も含めて考えてた。寺内 定数配置に関しては考え方をかえることは可能なんですか。

小林 三条に「職員の定数の当該部内の配分は、それぞれその任命権者においてこれを定めるものとする」とあります。

寺内 教員の場合、教職調整額、手当が支給されますね。「教特法」、「人材確保法」に基づいて、市ではお手当を出している。

傍 お手当で、指三本の話とまちがえとんか(爆笑) やっぱり素人やなあ(笑)

寺内 鈴木先生は異動によって、これらは支給されていますか。

小林 されません。高等学校に勤務する教員に対して支給されるものですから。

寺内 では、時間外に勤務されると手当は。

小林 支給されます。

傍 事務職員ということやないか！

寺内 教員の場合、時間外手当は。

小林 勤務の特殊性により、包括的に四割を支給されるので、時間外手当はつきません。傍 教員とちがうということやないか！

教育から何を奪おうとしているのか

定時制・通信制つづしを許さぬ会 辻 正博

前号で報告しました第四回芦屋教育井戸端会議の中の辻さんの報告について掲載します。定時制高校現場からのきびしい実態や、定通統廃合が生徒にどのような影響を与えるのか、単位制高校の入学できない子が増えているという話を、芦屋の茶谷さんの活動を通して市芦の先生から聞いていますが、それは尼崎でも同じです。

二次入試では受験者の半数近くが不合格となる年もありました。生徒急増期でも県教委は何の手当てもしてこなかったため、このようなことが生まれてきました。

現場では、良い生徒が集まるといふことで、学力の低い子、面接で目立つ子などが不合格とされていくのです。身体障害者に対する受験に対しても、「手がかかる」という意識から、排除の対象となってくるわけです。

定時制と市芦

耳の全く聞えない子が入ってきたのですが、入試の前の段階で管理職が受験をあきら

めるように指導していました。まあその親御さん、しっかりされておられて受けられました。トップ位で入ってきておるのですけど、それでも何かやかと話があって、ぼくの方で、いわゆる全聾の子が公立の昼間の高校に随分入ってる事例を探して、「何人も入るとる、学力があるのになんで落す必要があるんや」と粘ったんです。そういうことがあちこちで出てきているわけです。たまたまその子が養護学校高等部から転校してきたりした子であったり、この前の宝塚の良元分校の山谷君は養護学校の高等部を出ていますが、そのことでアカンとかいうようなことを言い出しているわけです。それはぼくの方の学校とか良元分校だけが言うてるのではなくて、今度出る県教委の単位制高校などつながっているんやと思うんです。

今の定時制生徒の実態としてはほとんど普

ことです。

定時制からの怒り

定通教育研究協議会で、「荒れる低児生」という言葉を使って報告された先生がいまして。そこには管理職が半単位、普通の教員が半単位参加されてるわけですけど、尼南の先生が、この言葉の使い方は無茶苦茶やないか、ということ指摘されましたが、そこでどうこうされることもなくてすみませんでした。生徒はしんどさを個々抱えていますから、何とか、こん畜生と思うところは確かにあります。だけどそれだけで終わってしまうと教師としてのやり甲斐というか、生き甲斐がなくなりま

す。生徒を見下し、切り捨てる管理体制が現場で進みますと、生徒を見る目が「低児生」というような目になってしまふんだと思います。そういう状態が学校の中に常識みたいにはびこっているから、その先生も使うのです。それが入試判定の時に出てくるわけです。だから最近入試の面接の時に、普通は仕事場はどこやとかそういうことを聞きますが、大抵の県立高校ではどういう服装で来て、どういふ髪型で来るかがチェックポイントになっていることだから推しても、手のかからない子を定時制に入れようと考え、手のかかる生徒を退学に追い込むのです。それが単位制

高校を引き入れるという道につながっているのではないかと思うのです。

定時制合格者の不本意入学を減らすんだというのを兵高教組でいっていますが、なかなかそうはならない。尼崎の場合ですが、昼の高校の生徒を五割増やしたら定時制に来る子は少なくなりま

す。それで組合の方針としては、不本意入学者を減らすために全日制高校の五割アップを、ということが方針としては出ていますけど、兵高教組の会議に出てまして定時制の立場から本気で五割アップというならばくらは賛成なんだけどもどかないんだという話をしますと、全日制の先生は、五割アップを本気で賛成しません。そら、父母むけには賛成といいますが、やっぱりしんどい子が入ってくるのは困るというのがあるわけです。

と本質的に変わっていない。ただ、世間的に生徒が単車乗ったり、自動車乗ったりしますの

で、自動車の子は少ないですが、年頃だから

乗りたいのです。三、四年になると免許取れ

ますから乗ります。ところがいつのまにか車

を手放しています。維持費がもたんからです。

給料の大半が自動車になります。家の仕事で

使ってる場合は乗ってきますけど、それ以外

の子はギリギリで乗っているか、手放してし

まうのです。単車は許可してるんですけど、

やっぱり交通費として安いということに乗っ

てくる。中には遊んでる子もおりますが、交

通は自転車が一番多いです。二八〇名いて自

転車は一〇〇台以上あります。逆にいえばバ

ス代が高いということもいえると思います。

生徒の生活というのはクラブのユニホーム作

るのも大変で、金がなかなか集まりません。

このこと一つからみても全然かわってない

のではないかと思います。

尼崎の場合は公立の全日制が六〇%しか進

学できていません。公立の定時制への進学率

が四・六%ですので、全県で一番多く来てい

る訳ですけど、それは家庭訪問を通してわか

りますように、生活の状況が悪い生徒が多い

ということですよ。芦屋の場合、それぞれ七〇

%、一・六%というのは、一つはやっぱり市

芦の存在があるからだろうと思います。市芦

が定時制にいく生徒を受けとめていたとい

う

へ引き上げていく。というのは、学校間格差

をつけるということですよ。そうなることや

はり生徒がお互いの学校に、どういう学校に行

っているかということであるんな思いをする

わけですが、それはいまいった差別落書にあら

われているわけです。書いた生徒は県尼の就

職クラスに居る生徒なんです。その生徒もズ

タズタにされとうわけなんです。

特に単位制高校には今度昼の部を作る。そ

の昼間部をなぜ作るかというと、全日制高校

を中退してる子が昨年だけで二、二二六人

います。兵庫県の公立高校で。これは何とか

なあかんというのが県教委の思いなんです。

全日制は受け入れませんが昼間部の定時制

に午前・午後を設けてそこへ押し込む予定

なんです。そして押し込んだらお前らの進路

保障をしたということになりますからそういう

受け皿にしようとする。そうしますと昼間の

先生方は、いくら中退させても受け皿がある

から安心して、極端にいうたら生徒を切るこ

とができる、ということになるだろうと思

います。それが行政のねらいで、全日制のト

ップ校から定時制へと格差をつけ、資本の要求

に感えた人作りをしていくという動きをして

いる。その動きの中で生まれたのが差別落書

であるとおさえ、兵高教組にいて文章を書

いたのですが、差別落書に関する文章は削

てくれというわけです。「いや、削られへん

ねん、その県尼の生徒が悪いと書いとんのと違う。こういう生徒を作ってきたのが県教委やから、そういう県教委の姿勢を改めさせるのだ」といっても、それはあかんということ

で原稿はボツにされてしまいました。それはどうということかと、先程少しいきましたように、全日制の五劣アップを狙っている組合であるわけですが、やっぱりしんどの生徒を断るといふようなこととどこかで結びついてきよるわけですね。

私たちは市芦の学校の動きをずっと見てきたわけですが、恐らく市芦はそういう生徒をずっと育ててきたように思うわけです。しかし、そういう生徒を全部切っていくとしたら、例えは労働組合の活動家になっている子が居ます。そういうのを見ても、高校の三年間なり四年間なりで培ってきたものはやっぱり将来のバネとして働いているのは事実なんだと思います。定時制に一年間なり二年間なりではそう簡単に生き方を変えませんが、もう大体一七か一八にならんとその子らの考えや生き方が変わるとは思えません。ぼくも途中で見放すというか、極端にいえば、あそこの子はもう学校におれんなあということ

で去っていく子もいます。なんぼ話してもアカン場合もあります。

今の一年生、ぼくの持っている子で、例えば遅刻をよくしてくる。その子は仕事をしないのですが、何としても学校に近づけない、あかんということで話しても、わかりました言うて翌日はまた遅刻してくるというふうな子もいて、そんな子でも不安感や救いを求める顔を見せます。本人が変わるきっかけがないとそう簡単には直らないと思います。四年間なら四年間というトータルの中で見えないかと、なかなか生徒というのは伸びないと思うんです。だから単位制高校の中でも一、二年でポンポン切っていくと、全部生徒は切られてしまふんではないかと思うんです。

攻撃をはね返していく力

九〇年の三月に最終答申が出て、九〇年度位から実施に移すということになると思いますが。この芦屋地区でいいますと、武庫高校と西宮西高校がありますが、武庫をなくして西宮西に統合される危険性は高いんではないかとも思います。そうなりますと、通学時間がやはり延びるんです。延びたらやっぱりしんどいです。

尼崎でも四校ありますが、それぞれの学校の付近の子が多いんです。ドップマップいっきませんからそう簡単に取れません。二、三年で定時制高校に問い合わせがあります。しかし、単位は全然取れてませんし、転校できないということ断わるケースが随分あります。

単位制高校は朝と昼と晩があって、そこは三年間で卒業できるということになってるんです。三年間で卒業するためには午前中と午後、夜間の授業を受けることができます。そういう制度になっている。で、金沢中央高校の話を書きますと、三年で卒業するためには、昼の定時制と夜の定時制を二つ取らねばなりません。一学年一六〇名の生徒のうち、一六名がおそらく三年で卒業できるということ

です。一割位です。兵庫県でも白鷺工業というところが八七年に単位制高校を作ったんですけど、二年目で中止されました。なぜかといいましたら、要するに空時間にあっちに行ったりこっちに行ったり遊んでしまい、授業に出る生徒と一緒に遊んでしまう、そうすると生徒の指導に困って校長がかわった途端に止めたということです。実際に無理なんです。

単位制高校の実験校が失敗していても、その失敗に目を向けず、経済的効率の良い単位制高校を強行しようとしているのです。この県教委の企みをつぶしてゆかねばならないと思っています。

て家と学校とをつなぐと大体学校のあたりにずっとまとまる。それは自分が一番通いやすい学校やということであるわけですね。

それからもう一つ通学時間のことについて、その前、摩耶兵庫高校(定)を葺合高校(昼間)敷地へ移転するという話があったんですけど、それは現在つぶれました。ただ、まだ行政は移転を考えています。移転を止めるために何が決め手になったんかといいますが、看護婦さんで、息をきらしても五分か六分で遅刻するというので来られている人がいて、この人も昼休み時間を十分か一分短縮してまで、早目に仕事を終えて学校へ来ている。あるいは障害を持った子で、元町の駅から続く階段の屏を手づたいで来ている子がいたんですけど、その子が移転したら学校に行けなくなるということで、多くの生徒が反対したということがあるんです。

その生徒に限らず、学校へ遅れてくるという事は学校から遠ざかることです。やはり武庫から西宮西へ変わるとなると大変だろうなあとあります。そのへんは県教委ならこういうわけです。「電車一つの駅や」と。三分や五分でも遠くなることは定時制の生徒には大変なものだということをおまわりにも県教委は知らないのです。

県教委はあと二、三年で生徒数が減っていくと言っています。事実減っていきますが、た

寄稿をお待ちします

この通信も発行後三年が経りました。市芦反弾圧闘争、審理記録等を多くの方々に届けることができました。その中で、我々をとりまく状況は、いわば全国的にもみられることを、具体的な交流の中でつかめてきました。会員・非会員を問わず、各地での地道なとりくみをはじめとして、会員の方々の近況等もどしどしお寄せ下さい。お互いを少しづつ結びつけあう紙面として今後努力していくつもりですので、よろしく願います。

活動日誌(抜粋)1989.11.16~1990.1.17

- 12・16 分会会議。兵高教結成大会に参加。
- 17 「定通つぶしを許さぬ会」集会に参加。
- 20 SSK竹林さん解雇抗議大阪社前集会に参加。
- 28 通信No.36発送。
- 1・6 事務局会議。
- 10 第二三回公開口頭審理。
- 11 芦屋地労協常任幹事会。
- 13 麦の家第二回学習会に参加。
- 16 事務局会議。
- 17 救援会会計監査。解放同盟芦屋支部旗びらきに参加。

単位制高校の虚と実

最近、尼崎の生徒は二四〇名位専修学校へ行っていきます。そこはどのような学校かとい

ますと、通信で高校の資格が取れますよということ、その生徒たちは昼の学校へ行けるということで行くそうです。ところが、実際に行ってみますと、通信で単位を取らんとあ

分会字報日より

12/16「兵高教」結成大会開かれる

市芦反弾圧闘争支援を運動方針化

市芦分会

日本共産党のいろいろな組織「兵高教組(県高教)」が日教組を分裂・脱退したのを受け、あくまで日教組に残り、反臨教審を方針とした日教組運動を継承発展させる大衆組織として、兵庫高等学校教職員組合(兵高教)が結成された。市芦分会も、分会の全員投票によって、兵高教結成に参加した。今後、市芦分会は、兵庫の高教組運動の再建に向けて、兵高教の一員として運動を展開していくことになる。

兵高教は、当面の運動方針のなかに、「市芦反弾圧闘争支援」と「芦屋市公平委員会審理闘争への積極的参加」を組み込んだ。市芦分会にとって、初めて本当の意味での上部団体が誕生したことになる。

結成大会は、日教組副委員長・組織対策委員長小谷氏と日教組副委員長畑氏、神戸市教職員組合小牧委員長が来賓として参加して開かれた。

来賓を代表して挨拶に立った小谷氏は、「第七〇回日教組臨時大会で兵高教組(県高教)を脱退とみなし、兵高教を日教組の加盟団体

の問題指摘を積極的に行い、要求の正しさと強さを武器に少数であっても活動家の団結を軸にして大衆的な闘いを組織していく、ことなどが表明された。

解放運動と連帯できる教育運動と、対県三者共闘の確立に向けて

兵高教の当面の課題は、まず第一に組織の確立、拡大であるが、そのめざす運動の中心には、「臨教審反対、反差別の民主教育の確立」と「管理強化反対、強制配転攻撃阻止」が据えられている。その中で、特に生徒の教育権の保障のための「定時制通信制高校の統廃合反対」と「市芦高校分会の市教委に対する反弾圧闘争、芦屋市公平委員会審理闘争の支援」は、これまでの県高教が無視、あるいは妨害してきたものだけに、高教組運動の質の違いが明確である。

さらに、県高教は、一九七〇年代の半ばより対県三者共闘を分裂させてきた。そのため、これまでの高教組の対県交渉はかけ声だけなんの成果も得ることなく、すべてを分会まかせにしてきた経過がある。兵高教は、対県三者共闘の復活を方針化し、対県闘争の強化を課題として運動を進める。市芦分会も、対県闘争に結集し、大幅賃上げ、権利の拡大に取り組みます。

兵高教組運動を批判的に総括
新高教組結成に向け決意表明

再建準備会西尾会長(県芦分会)より、これまでの高教組運動の批判的総括と今後の組合運動の基本的あり方を確認する、新高教組結成に向けての決意表明があった。

兵高教組(県高教)は、かつて三原高校山下処分の闘いを放棄し、八鹿高校差別事件を契機に反部落解放運動の姿勢を露骨にし、育友会費闘争の遺産を叩きつぶし、青雲闘争つぶしに荷担してきた。新「兵高教」は、少数意見を大切にす民主主義を根幹に据え、日教組に団結し、教育のプロとして教育におけ

『資料』 兵高教運動方針

当面の闘争方針 <抜粋>

3. 臨教審路線に反対し、民主教育を確立するたたい

(1) 「初任者研修」の実態を把握し、その弊害と問題点を排除し、撤回をめざしつつ、形骸化をはかるため、県・市教育委員会交渉にとりくみます。

当面、当該校の自主的な校内研修の一環として位置づけ、教職員の協議と合意を原則としたとりくみをすすめます。

(2) 新免許制度を教職員の分断、支配を許さないために、人事、給与にかかわらせないとりくみをすすめます。

(3) 改悪学習指導要領撤回、平和、人権、反差別の民主教育の推進をはかるため、日教組の提起する諸闘争に積極的にとりくみます。

(4) 「日の丸・君が代」の卒業式、入学式における強要、斉唱攻撃に対しては、改悪学習指導要領撤回闘争の一環として位置づけ、移行措置告示による繰り上げ実施の不当性、「違反すれば処分」との弾圧的な姿勢に対し、思想、良心の自由に対する不当な挑戦と受け止め、反対闘争を強化し、その撤回をせま

ます。

なお、天皇の代替わりに伴う学校教育への介入、天皇の政治利用、「元首化」の動きに対しては、主権在民の憲法を基本に強く反対するとともに、「元号」強制に反対します。

(5) 生徒減少期にむけて、高校進学希望者全員入学、学校規模縮小、学校定員減、休職員定員増などを要求してとりくみます。

(6) 県教委が画策している高校入試制度・方法の改悪に反対するとともに、入試制度、学区の分割、コース制などの問題を検討します。

(7) 定時制・通信制高校の統廃合をねらった「単位制高校」の設置に反対し、定時制教育が中卒生の学習権を保障する場となるようとりくみます。

(8) 予想される定通統廃合に対しては、対県交渉を強化し、地域父母、県民と連帯してたたかいます。

4. 管理強化に反対し、強制配転攻撃を阻止するたたい

(1) 人事の「計画交流」方針の撤回を要求

して、組織的にたたかいます。

(2) 「希望と承諾」にもとづく人事を行うよう、対県交渉を強めます。

(3) 地域、職場での人事対策を早期に確立し、校長交渉を柱とする内示前のたたかいを強化します。

(4) 強制配転が強行された場合には、あらゆる抗議、撤回要求行動を組織し、組織の総力をあげてたたかいます。

(5) 不当配転を撤回させるため、新たに代理人を選任し、人事委員会への提訴者団を組織し、人事委員会審理闘争に積極的にとりくみます。

(6) 市立芦屋高校分会の芦屋市教委に対する反弾圧闘争を支援し、芦屋市公平委員会審理闘争に積極的に参加します。

(7) 「主任」をはじめとする校務分掌の一方的な校長任命に反対し、職員の意向を最大限に尊重した分掌決定をはかるためのとりくみを強化します。

(8) 「主任制」定着を阻止し、「主任制」撤回をめざして、「主任手当」の組合拠出をすすめます。そのため本部に、主任手当基金委員会を設置します。

市芦救援会決算報告

第3期 (自1989年1月1日
至1989年12月31日) 決算報告 第4期予算(案) (自1990年1月1日
至1990年12月31日)

〔歳入〕

科目	決算額	予算額	備 考
会費収入	1,156,080	1,500,000	
カンパ収入	1,262,400	1,500,000	
雑収入	50,239	20,000	利息、「時を刻む」売上
前期繰越	2,776,734	3,066,410	
合 計	5,245,453	6,086,410	

〔歳出〕

科目	決算額	予算額	備 考
法 対 費	460,316	1,000,000	顧問料、資料コピー代、食料費、着手金
通 信 費	376,213	700,000	通信発送費、振替料、封筒、ラベル他
印 刷 費	917,039	1,200,000	通信製版代、紙代、パンフレット、印刷諸材料、フィルム
会 議 費	114,180	150,000	弁護士会議、法対会議、集会部屋代
旅費交通費	167,150	200,000	旅費、ガソリン代、駐車料
事務局費	111,185	150,000	書籍、消耗品、録音テープ、電池他
諸負担金	30,000	50,000	他団体会費、参加費
雑 費	2,960	3,000	
次期繰越	3,066,410	2,633,410	
合 計	5,245,453	6,086,410	

1990年1月17日

上記の通り相違ありません

上記は正確適正であると認めます

会 計
監査委員小川文夫
前川耕三、三村直人

御礼とお願い

市芦救援会事務局

市芦反弾圧闘争も四年目に入りました。会員の皆様方をはじめとして、種々ご支援ご協力をいただいております皆様にご支援を深く感謝いたします。

上記に市芦救援会の第三期の決算報告をします。支出について、最大限切りつめる努力をしています。法対費について、弁護士の方々は日頃から手弁当同然の活動をしていただいております、今後は若干ですが増額していくつもりであります。

月一回の審理廷闘争を支える諸費用は莫大であり、それを支えるための繰込金についてもたくわえておく必要があります。収入について落ちこみがみられますが、種々のカンパ等によって支えられています。今後とも会員の皆様の会費納入とカンパをお願い申し上げます。

この間、通信をより多くの方々に、より広範囲に配布する努力もしております。新しく入会の呼びかけについてもお願いいたします。最後になりましたが、通信で皆様にお願ひしております冬期カンパにつきまして、多くの方々から温かいご協力をいただきました。ここに厚く御礼を申し上げます。